

(4) 水道施設・管路の耐震化と経年管の状況、鉛製給水管残存状況

令和2年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は38.0%、配水池の耐震化率は63.5%、基幹管路の耐震適合率は40.7%と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における令和3年度末の浄水施設の耐震化率は23.0%、配水池の耐震化率は50.0%、基幹管路の耐震適合率は49.9%、法定耐用年数40年を超えた経年化管路率は35.0%となっている（P.48～50参照）。

令和2年度末における全国の耐震管布設状況と法定耐用年数（40年）超の管延長は、次頁のとおりで、大阪府が残存率で全国ワーストとなっている（表一八）。

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は全国ワーストではないものの、残存件数は全国ワーストとなっている（表一九）。

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

表一八 水道管路の耐震化状況と経年管の状況（全国比較） 【令和2年度水道統計より】

耐震管の延長・割合（配水支管含む）				法定耐用年数(40年)を超えた管延長・割合			
管延長 (km)		布設率 (%)		管延長 (km)		残存率 (%)	
① 東京都	13,432.8	① 東京都	45.6	① 愛知県	9,701.7	① 大阪府	34.0
② 愛知県	9,432.0	② 富山県	30.3	② 大阪府	8,403.7	② 神奈川県	28.1
③ 埼玉県	7,652.3	③ 神奈川県	27.2	③ 北海道	7,981.8	② 香川県	28.1
④ 神奈川県	7,126.5	④ 青森県	26.4	④ 千葉県	7,819.4	④ 京都府	26.9
⑤ 大阪府	6,089.7	⑤ 埼玉県	26.0	⑤ 神奈川県	7,372.7	⑤ 千葉県	26.7
		⑥ 大阪府	24.6				

表一九 鉛製給水管残存状況（全国比較） 【令和2年度水道統計より】

残存延長 (km)				残存件数 (件)			
全体の残存状況 (km)		公道部の残存状況 (km)		全体の残存状況 (件)		公道部の残存状況 (件)	
① 兵庫県	442.5	① 石川県	273.9	① 大阪府	237,804	① 大阪府	88,857
② 石川県	349.0	② 兵庫県	175.9	② 兵庫県	202,234	② 兵庫県	50,618
③ 香川県	308.1	③ 大阪府	131.1	③ 神奈川県	119,374	③ 広島県	30,711
④ 大阪府	288.6	④ 静岡県	108.1	④ 香川県	118,795	④ 宮崎県	29,401
⑤ 宮城県	248.0	⑤ 神奈川県	101.3	⑤ 石川県	86,341	⑤ 新潟県	25,859